

12月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

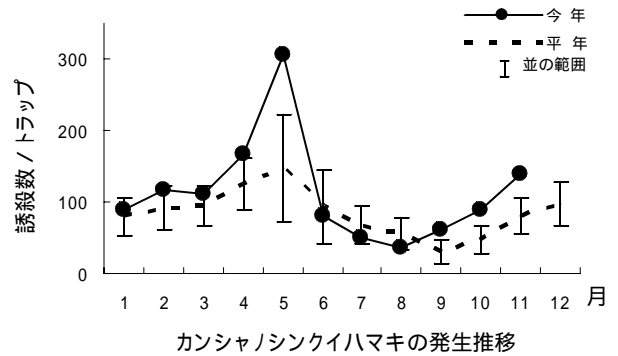
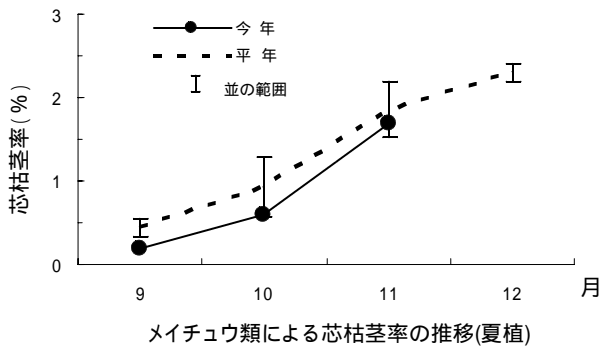
1 さとうきび

(1)メイチュウ類

発生程度: やや多

予報の根拠

- a 11月の新植圃場での芯枯茎率は1.7%（前年1.2%、平年1.8%）と平年並であった。
- b 11月のカンシャノシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は167頭（前年105頭、平年80頭）と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

- a 加害による芯枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 中耕時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

野その防除対策について

- a 被害は倒伏した収穫前の圃場で多くなる。
- b 今後のブリックス上昇に伴い加害が予想されるので、地域単位で一斉防除を実施する。
- c 畜舎等の隣接圃場では被害が多いので重点駆除する。
- d 薬剤は、圃場全体に均等に散布する。

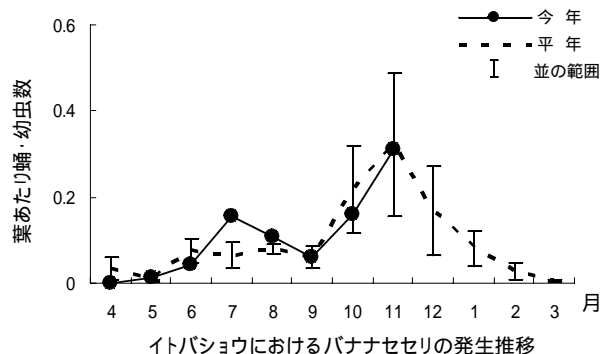
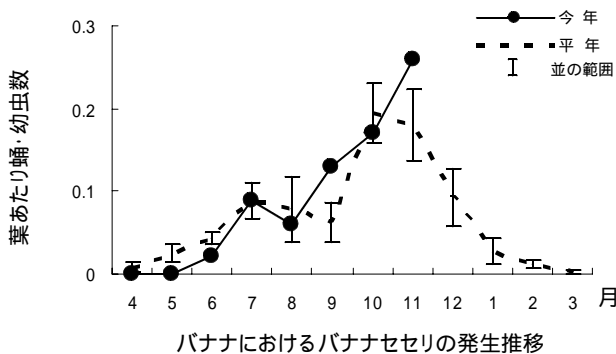
2 バナナ・イトバショウ

(1)バナナセセリ

発生程度: やや多

予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、葉あたり蛹・幼虫数は、バナナで0.26頭（前年0.06頭、平年0.18頭）と平年よりやや多く、イトバショウで0.31頭（前年0.05頭、平年0.32頭）と平年並みであった。
- b 例年、台風の接近が少ない年に発生が多くなる傾向がある。



防除上注意すべき事項

本種の蛹や幼虫は葉を筒状に巻いた巣の中に潜む(表紙参照)ので、この巣を発見しだい除去する。

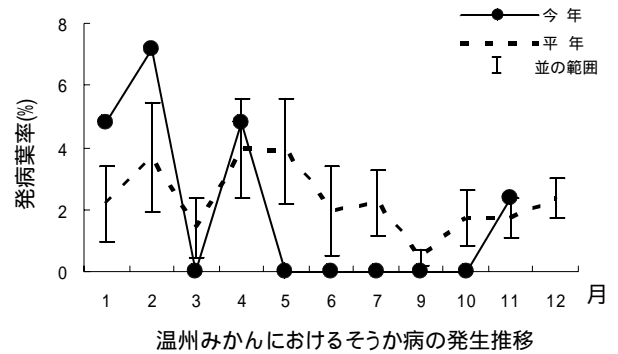
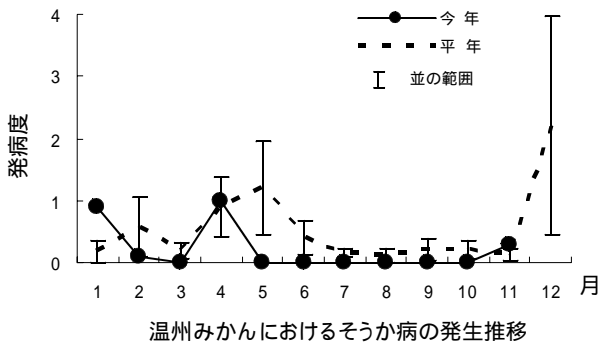
3 温州みかん

(1) そうか病

発生程度：並

予報の根拠

- a 11月下旬の調査の結果、葉における発病度は0.3(前年0.4、平年0.1)、発病葉率は2.4%(前年2.5%、平年1.7%)と平年よりやや高かった。
- b 12月の降水量は平年並みの見込みであるため、発生程度は並になると考えられる。



防除上注意すべき事項

罹病した枝葉は伝染源となるので除去する。

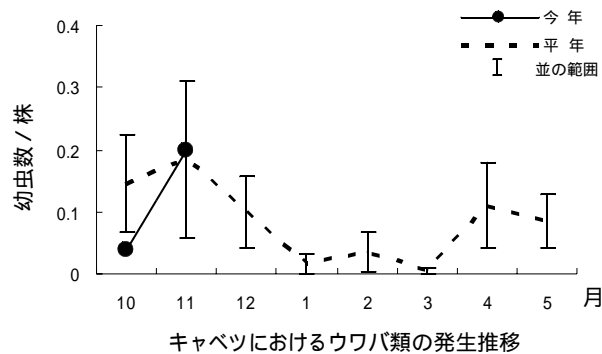
4 キャベツ

(1) ウワバ類

発生程度：並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.20頭(前年0.26頭、平年0.19頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

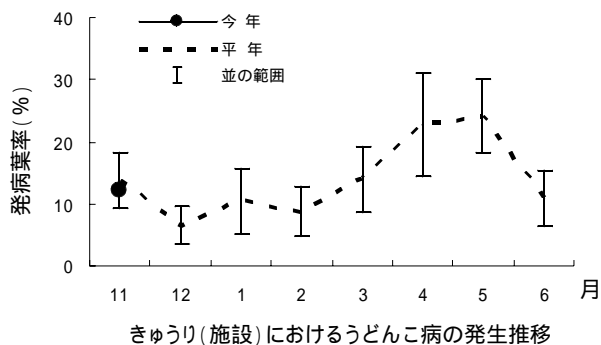
圃場周辺雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。

5 きゅうり(施設)

(1)うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は12.2%(前年1.6%、平年13.8%)と平年並であった。



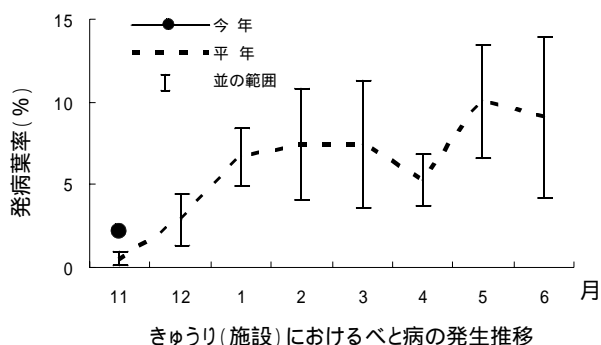
防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一・同系統薬剤の連用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

(2)べと病

発生程度： やや多
予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、発病葉率は2.2%(前年0%、平年0.5%)と平年より高かった。
- 一部圃場で多発生が見られた。



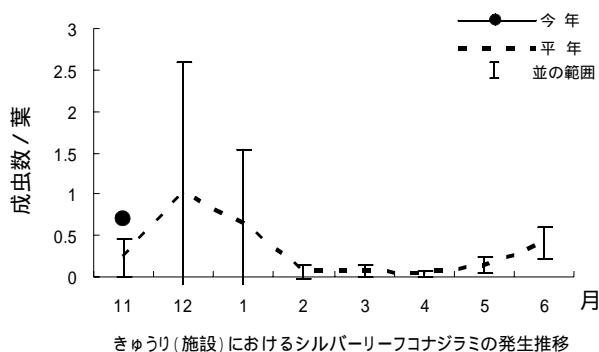
防除上注意すべき事項

- 敷草やビニールマルチをして水の跳ね上がりを防ぐ。
- 換気をよくし過湿防止に努める。
- 肥料切れしないよう適切な施肥を行う。

(3) シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.69頭(前年0.08頭、平年0.23頭)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

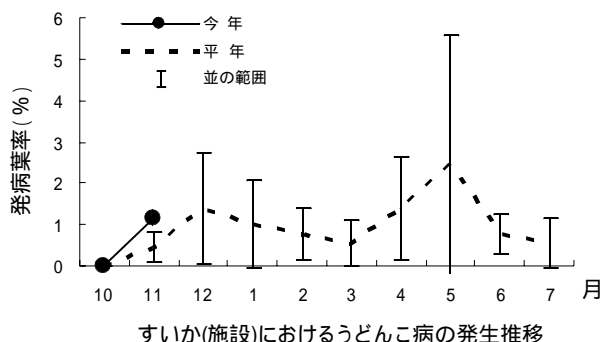
- 前作の残渣は施設内で蒸込み、本種の発生がなくなってから施設外に持ち出し処分する。
- 更新時の苗による持ち込みを防ぐ。
- 摘葉等による残渣は、本種の発生源となるのでビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる周辺雑草を除去する。

6 すいか(施設)

(1) うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は1.1%(前年0%、平年0.4%)と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

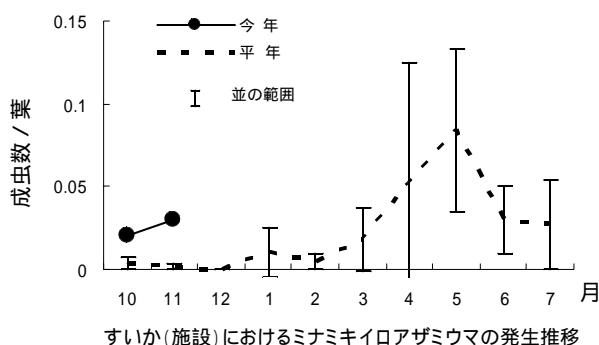
- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一・同系統薬剤の連用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

(2) ミナミキイロアザミウマ

発生程度: 多

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.03頭(前年0.01頭以下、平年0.01頭以下)と平年より多かった。
- 育苗施設における寄生株率は3.8%(前年1.6%)、発生施設率は75%(前年33%)と前年より高かった。
- 一部圃場および育苗施設で、本種が媒介するスイカ灰白色斑紋病の発生が見られた。



防除上注意すべき事項

- すそや側窓からの蔓や葉の露出は、ミナミキイロアザミウマの繁殖場所となるだけでなく、施設内侵入を容易にするため、すそや側窓は閉じる。
- 育苗段階での管理を徹底し、苗による持ち込みを防ぐ。
- 平成17年度病害虫発生予察注意報第3号(平成17年12月1日発表)参照。

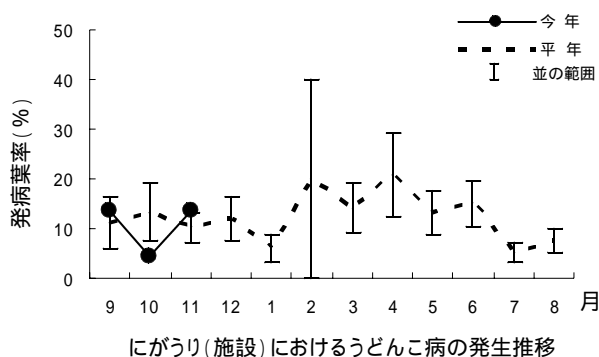
7 にかうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度: 並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は13.5%(前年7.8%、平年10.3%)と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一・同系統薬剤の連用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

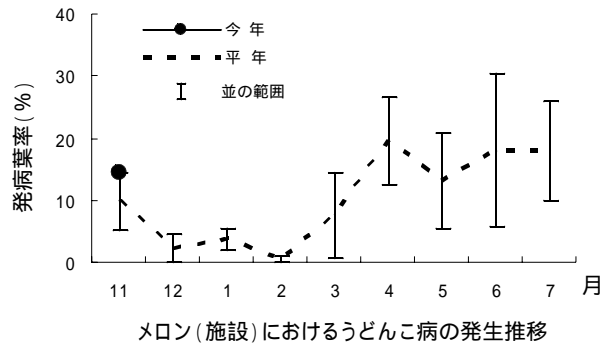
8 メロン(施設)

(1)うどんこ病

発生程度: やや多

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は14.5%(前年11.8%、平年9.8%)と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一・同系統薬剤の連用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

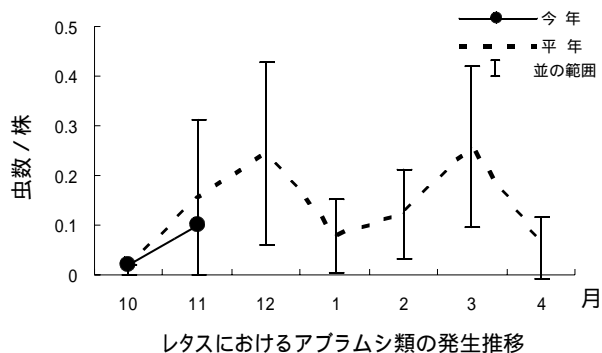
9 レタス

(1)アブラムシ類

発生程度: 並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、株当たり虫数は0.10頭(前年0頭、平年0.15頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 本種はモザイク病を媒介するため、シルバーポリテープ等を利用して有翅虫の飛来を防ぐ。
- 育苗期には防虫ネット等による被覆を行う。

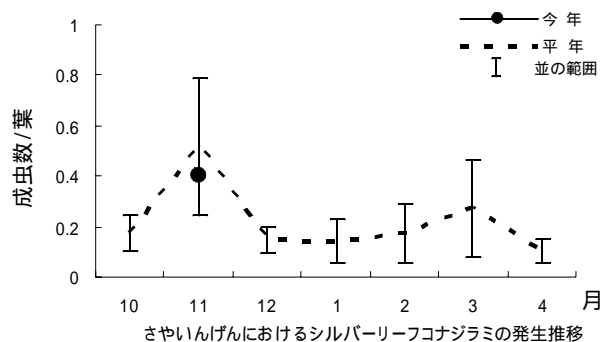
10 さやいんげん(平張り)

(1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭(前年0.7頭, 平年0.5頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 施設内への飛来侵入を防止し、早期発見・早期防除に努める。
- 摘葉等による残渣は、本種の発生源となるのでビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

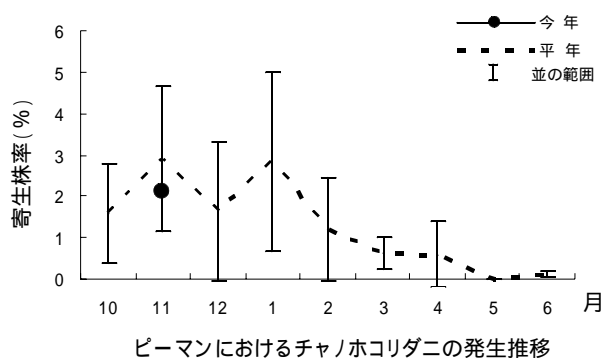
11 ピーマン

(1)チャノホコリダニ

発生程度： 並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、寄生株率は2.1%(前年0.4%、平年2.8%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 昨年発生した圃場では今年も発生を繰り返す場合が多いので特に注意する。
- 繁殖が早く、多発すると防除が困難なので早期発見・早期防除に努める。
- 成長点付近の葉の隙間や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、散布むらの無いようにていねいに散布する。
- 摘葉等による残渣は、ビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

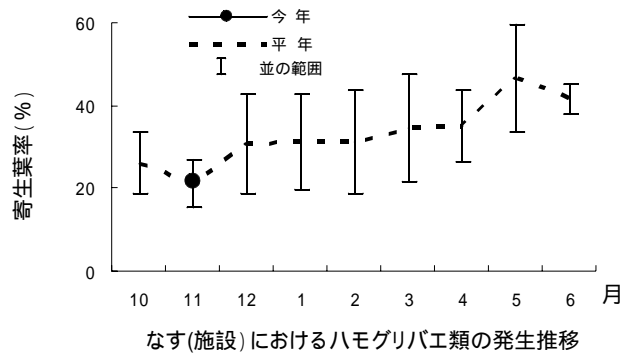
12 なす(施設)

(1)ハモグリバエ類

発生程度： 並

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、寄生葉率は21.4%(前年19.5%、平年21.0%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 育苗中も防除を行い、苗による持込防止に努める。
- 入口、側窓、天窓は防虫ネット等を張り、施設内への飛来侵入防止に努める。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める
- 摘葉等による残渣は、本種の発生源となるのでビニール袋等に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。